

# 吉野作造の遺品展示

## 大崎市文化財指定を記念

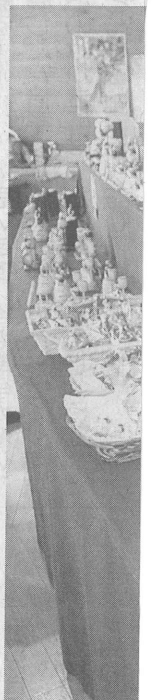
28日まで

924(大正13)年に記した書は「人生に逆

境は無い」で始まる。孫文の書「天下為公」には「吉野先生」と記

されている。吉野の日記には東京で暮らしていた15(大正4)年6月に孫文の話を聞いたとあり、この際に贈られたとみられる。孫文と並ぶ革命の指導者、黄興らの名が並ぶ寄せ書きなど中国関係のもの16点に及ぶ。

作造記念館(0229・23・7100)。  
【山田研】

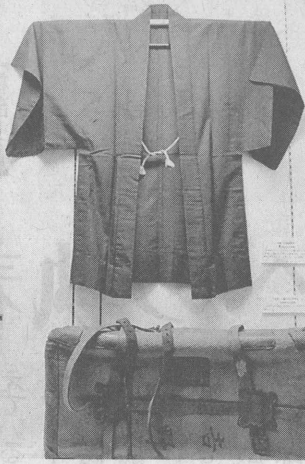


会場には、白石市

吉野作造記念館(大崎市古川福沼)で1日、同館所蔵の吉野の遺品類54点が同市の文化財指定を受けた記念展が開幕した。身の回りの品や、辛亥革命(1911年)で中心的役割を果たした孫文ら中国の政治家・思想家との交流を伝える品が並ぶ。

吉野は1878(明

治11)年、現在の大崎市古川生まれ。吉野の長男夫婦をはじめとする遺族から寄贈された品が昨年11月、文化財に指定され、その全点が展示された。身の回りの品では、「吉野」と書かれた布製カバン、正絹の羽織などが並ぶ。自身の講演論文を巡り朝日新聞社を退職した前日、1



「吉野」の名字が書かれたカバン(下

寛永向在制後



吉野作造に贈った孫文の書も展示されている—大崎市の吉野作造記念館で

同館の小嶋翔研究員は「文化財指定を機に、大崎の先人、吉野が民主主義や東アジアの相互理解の実現に取り組んだことを今の人たちに広く知ってもらいたい」と話した。

記念展は28日まで(月曜休館)。一般310円、高校生210円、小中学生100円。日用品などを紹介する企画展示室のみは無料。問い合わせは吉野